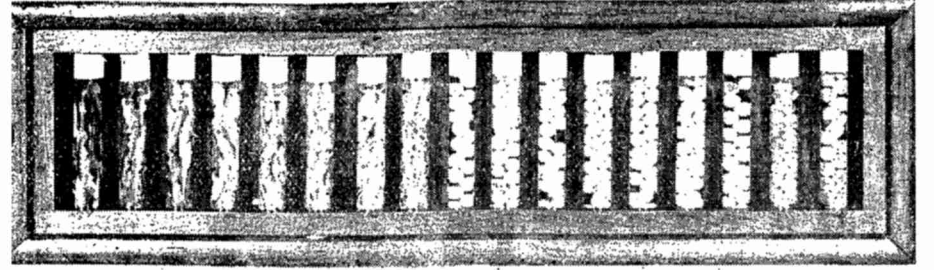


謹賀新年



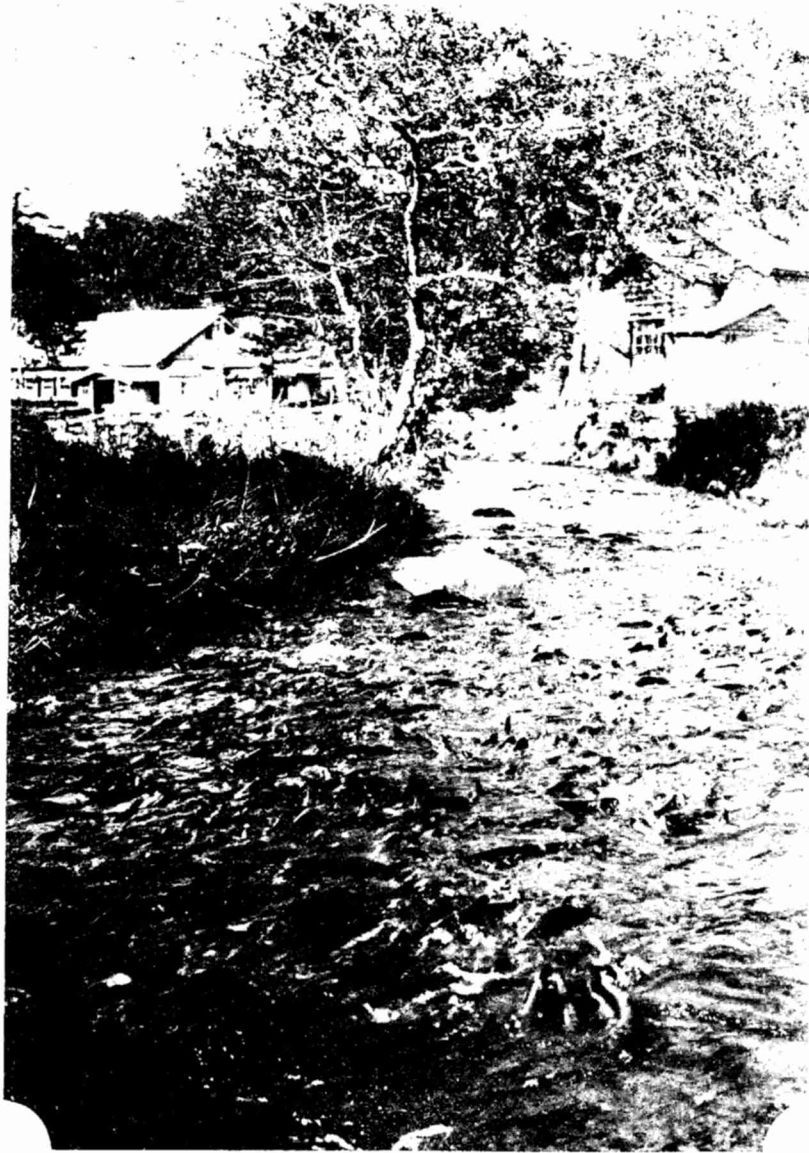
鮭發生標本實費配布

一組金五圓 送料不要

教育、學術、産業上の好資料たる鮭發生標本を作
製し前記實費を以て配付す、体裁優美にして室内
裝飾品としても好適す至急申込あれ

北海道鮭鱒孵化事業協會

北海道廳水産課内



昨夏擇捉島に來遊せる樺太鱒未曾有の多量にして同島に於ける漁獲高實に三十万石に上れり。而して河川も亦此等
産卵魚充滿し流水爲めに妨またげらるるに至れりと。

樺太鱒産卵の大爲山川の上壯觀

謹 賀 新 年

一 月 元 旦

北海道鮭鱒孵化事業協會

會 長 內藤晴三郎

理 事 長 小石季一

理 事 森脇幾茂

同 半田芳男

(職 員 囑 託) 谷脇重助

同 齋藤光雄

謹 賀 新 年

一 月 元 旦

同 野田信俊

同 山本 信

同 前田敬治郎

同 下間宗治

同 菊地覺助

同 波多野安吉



大山川畔に於ける卵死の鮭魚

謹賀新年

一月 元 旦

勇拂郡苦小牧町幸町三二
勇拂孵化場主任

村井義雄

白老郡白老村大學敷生村
敷生孵化場主任

毛利八百藏

浦河郡浦河町
日高水産會技師

荒木勝二

三石郡三石村
三石漁業組合長

齋藤直次郎

謹賀新年

一月 元 旦

有珠郡床丹村壯籃溫泉
洞爺湖漁業組合書記

石井衛

山越郡八雲町

遊樂部鮭魚蕃殖組合理事

齋藤憲彰

同 孵化場主任

渡邊定吉

室蘭市膽振支應内

膽振水産會主事

近江幸一郎

謹賀新年

一月 元 旦

浦河郡荻伏村
荻伏漁業組合書記

小出谷政二

靜内郡靜内村

靜内漁業組合

同 靜内漁業組合書記

曾我部齊治

枝幸郡枝幸村
德志別孵化場主任

田中藤太郎

謹賀新年

一月 元 旦

根室開陽別局區内計根別
上當幌孵化場主任

淺沼美義

函館市大町

八木澤繁次

釧路市真砂町五〇

平方網一

同 頓化一五

富浦富之助

謹 賀 新 年

一 月 元 旦

川上郡熊牛村
(釧路國標茶局區内)
西別孵化場

内海重左工門

新妻六郎

幸内慎治郎

道上永吉

謹 賀 新 年

一 月 元 旦

目梨郡植別村羅白
羅白孵化場主任

飯島尙輔

紋別郡紋別町

紋別鮭鱒養殖水産組合

同組合長 大西眞平

同主事 大道寺政治

資 料

北海道鮭鱒孵化事業獎勵の成績

北海道廳水産課長

小 石 季 一

○ 本道に於ける鮭鱒孵化事業の中民間經營に屬する事業は昭和元年度迄は北海道地方費に依て補助しその發達を圖て居たが第二期拓殖計劃の實施せらるると共に昭和二年度より國費を以て補助獎勵さるる事となつた。爾來豫算の關係上計劃そのまゝの實行は出来なかつたが其の成績は豫定計劃以上の好果を收めて來たので昭和五年の新春を迎ふるに當りその概要を紹介して會員諸君と其の悦を共にし併せて今後お互に斯業の發達に努力し目的の達成に進み度いと思ふ。

○ 孵化事業獎勵實施以來昭和四年に至る迄に孵化場新設豫定計劃は鮭五ヶ所三千万粒鱒五ヶ所九百万粒で之に對する

補助豫算は三万四千五百圓であるが實施の成績は鮭十ヶ所四千五百万粒鱒六ヶ所千八百万粒交付した、補助金は二万六千二百二十七圓である。次に孵化場の改造豫定計劃は鮭十ヶ所三千万粒、補助豫算一万五千圓であるが實施成績は鮭十四ヶ所、八千五百五十万粒、鱒九ヶ所二千八百万粒で交付補助金一万四千六百三十八圓である。事業の豫定計劃は鮭二億粒、鱒一億四千万粒採卵に對し補助豫算四万〇五百圓であるが實施成績は鮭約三億五千万粒、鱒約一億六千万粒の採卵で交付補助金は四万一千百七十五圓である(事業は昭和二、三兩年度分)

以上の成績を綜合すれば孵化場の新設改造は補助豫算の約八二%を以て豫定計劃の二倍半の實施を見、又事業は補助豫算より六百七十五圓を余計に交付したが豫定の一倍半

増加の成績を収めた事となる。

○ 前述の如き成績を収めてはおるが本事業の結果が鮭鱒漁獲高に現はれて来るのは未だ二三年の後に待たねばならない。然し奨励の結果として茲に擧げ得るものは第一に孵化場の新設、擴張、改造の勃興を來したことである。地方費補助時代には一ヶ年平均三ヶ所一ヶ所平均一千六百万粒の増加であつたが昭和二年度以降一ヶ年平均五ヶ所一ヶ所平均二千九百万粒の増加に躍進してゐる。第二には補助率の増加と補助方法の改善に依て地方費時代には百万粒の孵化場の新設に對し三割、事業費に對し五分の補助に過ぎなかつたものが國費補助時代となつて百万粒孵化場の新設には五割、事業費に對し一割乃至二割の補助に増加したので従

本邦に於ける鮭鱒孵化事業の現況

農林省水産局 大 島 養 市

鮭鱒類は食用魚類中、最も重要なものの一つであつて、魚食國民たる本邦人が、日常の食品として廣く用ひてゐる

ことは勿論であるが、歐米人の如き平常獸肉を多く嗜好し、魚類を余り好まない國民ですら、鮭鱒だけは美味な食用魚

類として貴重してゐる。従つて全世界に於ける鮭鱒の需要高が、頗る多額に上るであらうことは想像に難くない。

往時鮭鱒類が非常に多く蕃殖してゐた事は、種々な事蹟に徴して見ても明かなことで、我國の例について見るも、北海道の石狩川に於ては、昔は鮭の遡上するもの頗る多く、例年産卵期に達すれば、河の上流は鮭で埋れ、人は其背を渡つて河を越すことが出来、又竿を魚と魚との間に突き立てる時は、容易に倒れなかつた許りでなく、産卵後斃死した鮭が山積して河の流れを堰き止め、爲めに水が溢れて附近の民家が浸水せんとしたことさへあつたことである。事の眞疑は兎も角として、當時鮭の夥しく河を遡上した事實だけは想像し得られる。然るに年を経るに従ひ文化の向上と共に幾多の自然的並に人爲的の障害が頻發し、殊に我國の如く人口増加の著しい國に於ては、勢ひ需要の激増を來し、遂に濫獲の弊に陥り其産額が漸次減少の傾向を辿つた事は普く世人の知る處である。此事實は世界何れの國でも鮭を産する處は同様であるが、我國に於て最も甚だしい様である。

抑々鮭鱒(遡河性)の漁獲は、親魚が産卵の爲め河川に遡上した時、或は河川に遡上せんとして、河口附近に接近した時に行ふものであるから、他の遠洋魚類に比較して、其漁獲が頗る容易である。併し此時期は鮭鱒の蕃殖上最も大

來よりは余程經營に余裕を生じたのである。第三には事業の取締監督の途が備はり奨励と指導監督とが平行して事業内容の充實と効率の増進とを來した。

○ 然し以上の状態を以て安心する事は禁物であつて更に成績の向上につとめなければならぬ。近時各種産業の發展に伴ひ水質の汚濁益々烈しくなつて來たし漁獲力の増進も亦著しくなつたので吾人が立てた増殖計劃を改訂せねばならない時と思はれると同時に各種の蕃殖に及す障害の除去につとめなければならぬと思ふ。それには本會會員の一致團結が非常に強い背景となつて吾人を應援して呉れることと思ふ。年の始に當てお互に奮勵努力する事を誓つておく。

切な時であるから、適當な保護を加へる必要こそあれ、魚の來游するにまかせ、思ふがまゝに捕獲せば、減少するのは寧ろ當然な現象と云はねばならない。

濫獲に次いで鮭鱒の産額を減少せしめる原因は、山林の荒廢であつて、昔山林の保護制度のよく行はれた時代は、樹木の伐採せらるること少く、従つて出水の憂ひが殆んどなかつたが、世の進むに従つて濫伐が盛んとなり、水源の涵養を失ひ、従つて洪水が頻々として起り、土砂を流して河容を變じ、鮭鱒の産卵場を荒し、又流水が直接卵兒に損害を與へる等が多くなつた。又近時水力發電事業が各所に勃興し、其他各種鑛山業、工業等が盛んとなり、魚道は遮斷され、有害物質を含む悪水は排出され、ために往時多大の漁獲を見た地方で、今日全く廢漁に歸した實例が少くない。

之れが對應策としては、早くから天然蕃殖保護の施設がなされ、既に新潟縣三面川に於ては文化五年に、河身の一flowであつたものを、三flowとし二flowを鮭種川として産卵を保護し、一flowを疏水に充てて一面出水の場合の治水策を講じた。又北海道に於ても記録に残つてゐるものに依れば、石狩に駐屯した荒井金助なる者安政年間暮命を奉じて、豊平、發寒の兩川に於て親魚の濫獲を監視せしめ、後天然孵化を保護する等の方法を構じたが所期の効果を擧げることの困難

であることを知り、明治十年頃から米國に範を取り積極的に鮭鱒の人工孵化放流をする様になり、漸次斯業が盛んとなり、鮭鱒を産する地方は何れも孵化場を開設する様になつた。越えて大正十五年度からは、農林省に於て年々約二十万圓の國費を支出して、鮭鱒の人工孵化並に親魚養成事業の奨励をなし、斯業の圓滿な發展を計つて、鮭鱒の數量を現状に維持する許りでなく、進んで其増加を期し、國民に保健的營養食品の供給を容易にせんと企圖してゐる。全く鮭鱒蕃殖の前途に一大光明を與へたものと云はねばならない。

本奨励の實施直前である大正十四年度の我國本洲（北海道）の鮭鱒孵化放流事業の現況は本彙報第一號に記載しあれば之れを除く）に於ける鮭鱒類孵化放流事業の概要を見るに、遼河性鮭鱒に於ては、孵化場數公營二一、私營四〇、計六一ヶ所。收容卵數は公營一三、七四三、四二〇粒、私營一二、七七六、二五五粒、計二六、五一九、六七五粒にして、孵化放流尾數は公營一一、八一五、四五〇尾、私營一一、九八二、六八九尾、計二三、七九八、一三九尾であつた。内水面鱒族の孵化放流事業（鱒、姫鱒、虹鱒、河鱒）に於ては、孵化場數は、公營四三、私營二〇、計六十三ヶ所收容卵數は公營七、八〇〇、八五一粒、私營四、六七〇、〇〇〇粒、計一二、四七〇、八五一粒に達し、其孵化放流尾數は、公營四、四

二四七、四〇三粒、放流尾數六九、〇〇八、一八三尾に達した。而して昭和三年度に於ける奨励金交付額及事業成績は左の如くである。

交付先	奨励金額	孵化場數	收容能力	收容卵數	放流尾數
愛知縣	三、八四三	四	四、四〇〇	五、五八四	四、五三〇
山形縣	一、九七六	六	三、五〇〇	一〇、八〇四	一〇、九四一
青森縣	一〇、七二五	五	一、七〇〇	八、九四五	七、九六八
秋田縣	一四、九三五	八	二、二〇〇	五、九八二	四、八四三
岐阜縣	一五、二八二	一五	二、三〇〇	六、三三七	五、七六二
福井縣	三、六四三	二	一、三〇〇	四、八六二	四、〇四〇
長野縣	九、三九三	七	一、四〇七	三、五三〇	二、一〇三
石川縣	九、五〇三	一	四〇〇	一、一九七	八、四八〇
福島縣	八、六〇〇	五	九〇〇	一〇、〇〇〇	九、二六六
新潟縣	八、一三〇	五	一、四〇〇	一、七三三	一、五六一
滋賀縣	九、七七一	一	一、〇〇〇	六、四三三	五、六四八
群馬縣	七、〇〇〇	四	三〇七	二、四六六	一、九三三
富山縣	七、三三三	二	四〇〇	三、八三三	一、八九四
東京府	四、九四五	一	一〇〇	一、〇〇〇	七〇〇
神奈川縣	五、〇〇〇	一	一〇〇	一、三三三	七三三
岩手縣	三、六一四	三	七〇〇	二、五〇〇	一、〇七三
宮城縣	五、六一一	四	五〇〇	三、三六〇	三、九五〇
栃木縣	三、四一〇	三	一〇〇	七、〇八六	四、三、四〇〇

九五、六五九尾、私營二、八二六、七〇〇尾、計七、三三二、三五九尾であつた。遼河性鮭鱒類及び内水面鱒族の總收容卵數は三八、九九〇、五二六粒で、其放流尾數は三一、二二〇、四九八尾に達してゐた。

大正十五年度農林省の鮭鱒増殖奨励事業が實施せられるや鮭鱒の人工孵化放流に適する各府縣は舉つて補助の申請をなし、今迄内容の貧弱な私營であつた孵化場はこれを縣營に移して設備を完全にし、技術の向上を計り、又適當な土地を選定して孵化場を新設する等實に目まぐるしい發展をした。現在では本州に於て鮭鱒を産する府縣は殆んど全部農林省の奨励金を受けて、斯業の發展に努力してゐる。

初年度即ち大正十五年度に於ては青森縣外十五府縣及び北海道の八組合に對して、計二〇七、五〇〇圓の奨励金を交付した。其孵化場數は北海道を除き九一ヶ所で事業成績は總收容卵數一〇一、一四七、五六二粒、放流尾數八三、五五七、六〇六尾に達した。即ち收容卵數に於ては、奨励前の大正十四年度に比し、二倍五分以上に達し、放流尾數に於て二倍六分以上に達してゐる。

奨励第二年目即ち昭和二年度に於ては青森外十八府縣、二水産會、二組合に對し、前年同様二〇七、五〇〇圓の奨励金を交付した其孵化場數は一〇八ヶ所で、總收容卵數八三、

府縣	收容卵數	放流尾數
京都府	三、〇〇一	二
茨城縣	二、七二六	二
兵庫縣	二、二四三	二
山梨縣	一、五二〇	二
島根縣	一、三六六	一
新潟縣	一、一六三	一
上陸產育	一、〇〇〇	一
養所	一、〇〇〇	一
廣島縣	八三四	一
水産會	一、〇〇〇	一
鳥取縣	一、〇〇〇	一
伯郡水産會	九二一	一
計	一九、四九八	二〇

備考 右表中福島縣及東京府の收容卵數と放流尾數は未だ其報告に接しないため、計割の數量を記載して置いた。

右は凡て公有水面に於ける鮭鱒類の人工孵化放流事業についてであるが、此外種卵自然の目的を確保するため、孵化兒の一部を飼育池に收容し、親魚の養成に努めてゐる府縣が數個所ある。其魚種は主として米國産虹鱒及び河鱒である。この種卵は放流用の分と共に年々米國にその供給を仰いでゐる。大正十五年度以降昭和三年度迄に米國から移殖した鱒卵は、虹鱒一、二七五万粒、河鱒二、九一〇万粒、計四、一八五万粒に達し、其内池中養殖用として飼育池に止められてゐるものは、昭和三年度末現在で總數百万尾以上に

達してゐる。而して現在親魚の養成をなすつゝある主なる養成場及び其昭和三年度末現在の養成尾数は左の通りである。

縣名	養成場名	魚種及年齢	養成尾数
長野縣	明科養魚場	虹鱒、河鱒其他	10,000
青森縣	柏坂及十二湖養魚場	虹鱒二一八才	七、三三
秋田縣	花館、田澤磯野化場 及栗山池	虹鱒、河鱒 一三才	一五、八元
福井縣	土布子野化場	虹鱒、河鱒 二一四才	一八、三六
新潟縣	魚々養鱒場	虹鱒、河鱒其他 一三才	一四、三〇

鮭の生殖期間絶食に據る理化學的の特徴

北海道帝國大學水産専門部教授 理學博士 藤田經信

左の一節は露國黒龍江に産する(秋鮭日本産と同種)に就きベンテゴッフ教授外二名の研究報告の抄録で浦鹽の太平洋水産研究所より發行する雜誌に掲載されたものである。同種の鮭でもあり我水産業にも裨益する處が多いだらうと思つて茲に摘譯することとした。

(1) 中庸大の試験魚の標準を其の体長と体重とに置いて海岸から産卵場まで千二百軒間に八回と産卵場にて四回の採集を行つた。其の時の魚の情態は種々あつて將に死せん

とするものをも含んでゐた。其の平均大を頭尾を去つた標準大のものに對照して次の如く魚体の各部に現はれた結果を得た。

骨 皮 内 臟 生 殖 器 頭 重 頭 長	雄		雌	
	健全の時	斃死の時	健全の時	斃死の時
(+) 1.18	(+) 1.26倍	(+) 1.12倍	(+) 1.15倍	(+) 1.07倍
(+) 1.14	(+) 1.44	(+) 1.43	(+) 1.1元	(+) 1.1元
(-) 1.18	(-) 1.18	(-) 1.18	(-) 1.18	(-) 1.18
(+) 1.18	(+) 1.18	(+) 1.18	(+) 1.18	(+) 1.18
(+) 1.18	(+) 1.18	(+) 1.18	(+) 1.18	(+) 1.18

備考 (+)は増加、(-)は減少。生殖器の増減は遠く河川湖上した後に現はれ、雄は海岸を去る四〇七軒の處にては増してゐた。

(2) 筋肉組織の化學分析は湖上の途次より死亡する迄の間に左の變化を示す。

水分 固形物 脂肪 蛋白質 灰分	雄		雌	
	湖上の途次	斃死の時	湖上の時	斃死の時
水分	六六、五五%	八五、七三%	六五、九元%	八四、六三%
固形物	三、三五	一四、二七	四、〇五	一五、七〇
脂肪	九、一八	一〇、一七	一一、一八	〇、四九
蛋白質	二、〇〇	一三、二六	二、〇六	一三、九六
灰分	一、二〇	〇、八四	一、〇二	〇、九三

(3) 筋肉組織中の脂肪分(△F)の減少は水温(△T)の低下に平行し平均△F=1.34である。

(4) 各採集場よりの標本の体重と分析とを考慮して平均

六

縣名	養成場名	魚種及年齢	養成尾数
岐阜縣	大垣鱒類養成場	虹鱒、河鱒其他	一六、四〇
滋賀縣	知内野化場	虹鱒、河鱒 二才	一六、〇〇
愛知縣	矢作川、豊川野化場 及入鹿池	虹鱒、河鱒其他 一三才	四三、三三

右の内成績最も顯著なものは、青森、長野の二縣で昭和三年度に於て青森縣では約百五十万粒を採卵し、内約八十万粒を他府縣に配給し、長野縣では約百万粒を採卵した。以上の如く水産増殖奨励に依つて鮭鱒類の孵化放流並に親魚養成事業が益々進展しつゝあることは、斯界の爲めに慶賀に堪わないことである。

標準大の魚が海より産卵場即ち一、二〇〇軒の距離間に喪失する体質分量は次の通りである。

水分 脂肪 蛋白質 灰分 エナジー	雄	雌
水分	一五、一%	二〇、四%
脂肪	九、七%	七、七%
蛋白質	五、九%	五、六%
灰分	四、七%	四、〇%
エナジー	七、三	六、七

(5) 脂肪のエナジー消耗率は蛋白質の同率に對して初は増加するも後には減少する。

(6) 海岸より一、二〇〇軒間の距離に於て距離一軒に對し魚の生重量一軒の喪失する小カロリー量は雄にては五〇五、雌にては五七九である。然し各採集場所間に於ける此の喪失を平均すれば雄にては六三八、雌にては六九五となる。エナジー喪失の最多量は急流には減少する。

(7) 魚の速力は流速に反比す、相方共に其の速度は二四時間に平均一一五軒であつた。

(8) 河を湖上するにつき日々要するエナジーは魚の生重量一軒につき平均雄は二五八一〇カロリー、雌は二八三九〇カロリーである。

(9) 標識魚によれば海中の回游は河中と同じく水流に逆行し殊に水温の上昇と共に著しくなる。一日四四、五軒を流

る。潮流に逆ひて七〇軒を游泳し絶食しつゝ三四、五日を繼續する。斯く生殖回游は主に潮流により支持せられて河口に達する。

(10) 河中に於ける毎二四時の蛋白質の平均喪失量は已に喪失した残余であつて雄にては其の一、七三四%、雌にては一、三三五%である。

(11) 乾燥無脂肪の筋肉組織中の炭素及び窒素の含量の海より河の中に入り死亡する時減少する。蛋白質はクイダールによれば雄にては一、〇九%より四、六三%に雌、にては一、二二%より四、〇二%に増加してゐる。

(12) 海より五七〇軒溯れば貯蓄されたエネルギーの三分

講 義

鮭 鱒 講 話

一 鮭鱒の廻遊と回歸性

孵化場から放流された鮭鱒の稚魚でも天然孵化に依て出た稚魚でも何れにしても産まれた河を下つて海に出てから

斷言することは出来ない。北米に於ては河口に近い所の海峽、灣、入江等に一生涯棲息しておると言ふが之も斯る場所産卵期以外の時期に漁獲する事から推定したに過ぎない。本道の沿海に於ても膽振、日高、十勝、釧路、根室、北見の諸國の沖合で四月から七月頃にかけて大助、ラシヤマス時不知等と稱せられて鮭鱒の漁獲を見るし渡島方面では寒鱒と稱せられて寒中に鱒が漁れる。と言ふて北海道の鮭鱒は此地方を棲息場所とするとは斷せられない。此頃此場所通路所謂魚道に當るところかも知れない。兎に角鮭鱒の棲息場所は依然として謎である。蕃殖保護上から見ても又漁業の發展を期する見地からしても之を判明せしむる事が必要である。水産試験場に於ける重要水族の調査事業が進むときは何れこれ明かになる事と思ふが今のところ己むを得ない。

然し近頃行はるる標識を魚に附して放流する試験の結果は從來吾人が考へて居たとと稍々異なるものあるを知らしめた。本誌第三號所載の標津孵化場放流鮭稚魚は三年乃至六年後に根室國後方面を中心として北見沿岸から日本海に出ては各沿岸で漁れ遠くは新潟縣に及んでゐる。太平洋方面では案外少く廣尾で漁れておるのみである。又水産試験場に於ける標識放流の結果は落石沖で放流したものは擇

の一は消耗されて蛋白質は脂肪との關係上甚だしき變化を生ずる。此の變化は吸収因子即ち乾燥肉の一瓦がメセリン青の〇、一%水溶液五〇立方厘から吸収する其の一耗量の増加によつて決定される。

(13) 脂肪を含む乾燥筋肉組織の吸收能力即ち吸収因子Amは此の組織中の脂肪(F)の減少、水分Wの増加と共に増す $Am = \frac{1}{F} \times W$

(14) 魚の餓餓の程度により脂肪の沃度数は増加し鹼化数は減少する。

(15) 蛋白質及び脂肪の變化する程度は保存されたエネルギーの消費と直接相關する。

半 田 芳 男

後の消息は親と成る迄或は親と成る一寸前の時代迄は先づ解て居ないと言ふてよい。樺太鱒に於ては本道の沿海を一周すると思はるる資料はあるが之とても未だ確かであると

捉國後から遠くカムチャツカで漁れた。又北見沖で放流したものは南下して石狩方面で漁れた。朝鮮で放流した鱒は二ヶ月後にカムチャツカで漁れたと聞いておる。前記標津放流のもの漁獲率は一%以上の好成绩であるが後者はその%は非常に少く偶々発見されたものが報告されたとも考へらる。何れにしても標識は放流當時のものであるとしたならば鮭鱒の廻遊と回歸性との關係は從來よりも余程異つて考へねばならない。殊に孵化事業關係者は或はこゝに迷か生ずるのかも知れない。現に過日或民間孵化場の人が訪ねて来て曰く「放流した所へ多く歸つて來ないとしたならば孵化事業を爲すことは他人の爲に奉仕する様なものでツマラない感がする」と。見様に依ては無理もない意見であろう。然し孵化事業を奨励補助する國としては甲の河川で放流したものが乙丙其の他の河川へ洩上し或は沿岸で漁れたとしても大局から見ても何でもないわけである。孵化事業は公益事業であると言ふ根本觀念を確りと持つておれば他人への奉仕大に可なりである。唯本邦以外の地方で漁れると言ふ事になれば國としては損であるがこれも外國で鮭鱒を漁る権利をもつておる我國民とすれば或程度迄は我慢出来ると思ふ。自分としては以上の點に就ては大した問題としないが前述の例がもし事實であるとしたならば從來信じられておる回歸説―産れた河へ大部分歸ると言ふ説―を

これはたとひ假説であつても之に依て孵化事業の効果を説明するに困るかと思ふ。例へば石狩川に於ける後期浜上鮭の増加した事や北見國頓別川支流ウツタンナイ川の鮭回帰数の増加した事や或は支笏湖に於ける放流河川に多数の姫鱒が回帰した事其の他各孵化場の親魚は事業實施後数年にして放流河川或は養魚池排水へ蛸集して來た事實等は言はず偶然であるとしなければならぬ。

由來鮭鱒の回帰性の説明はいろいろあるが今日學説として何人も首肯すること出来る定説はない。昔は放流河川の河口を中心とし三十哩の半徑の圏内へ回帰するなど可なり念の入た愚説が唱へられるかと思へば凡て本能に依て回帰すると魚の考に委した説明で片付けやうとしたり。或は放流河口に近い適地に棲息して居て産卵期にはもとの河へ歸るなどと都合のよい説明をなすものもあつた。近來は水素イオン説とか内分泌説とか餘程六カ敷く理窟ボクなつて進歩の跡は歴然たるものがあるが要するに未だ解らないと言ふ事に歸する。斯く回帰性の説明は兎も角として回帰の事實は到處に認めらるる。已に述べた例は勿論であるが其の他標識放流に依て稚魚数の九十五%は歸つたと言ふのや紅鱒稚魚の四%が回帰したと言ふ事實を報告するものもある故に前に紹介した新しい事實として示す標識放流の結果を以て從來の移動の状況と回帰説とを覆すことは早計であ

趣味

水界漫筆

標識鮭受難記

急に白い網で掬はれたと思ふ時はもう僕は夫の大勢の仲間と共に上になり下になりして水から離れて居た。苦しいなうて感ずる間もなかつたよ。その中また水の中に戻つた。ヤレ〜と泳いで見たが馬鹿に狭苦しい。それでも息をつくには差支へないので不安裡に泳いで居たが仲間が急に騒ぎ出すので僕も後について泳いだ。何時も同じところをグル〜廻ておるのでサテハ受卵器とかへ入れられたのだと気が付いた。ともう生きてゐるのも長くないと感じた。一層飛び出してやろうかな等と思ふて居る中にまた掬ひ上げられた。今度は木綿の上に横に寝かされ後半身を強く抑へつけられた。藻掻けば益々々つけられる。漸く愈合した腹の傷がまた開く様に感ずるのもアキラメた。大きくアクビ

る。殊に風、潮、水温其の他の外因によつて魚道の變化を誘致することは明であり又標識の方法如何によつては數年後に於て眞の標識魚なりや否やを疑はしむる事もあるから尙更慎重に究めねばならぬのである。

假に今後調査研究の結果從來の廻遊状態と回帰説と異なる結論に到達したとするも從來の孵化事業は決して無駄や徒勞でない。まだ斯く決定するゝ場合には國家は將來更に合理的な事業としてその達成につとめるであらう或は孵化事業の國際化と言ふ方面に進展すると思ふ。

要は現在の僅少の新らしい事實によつて迷はされず孵化放流の効果を確信して斯道に精進するゝ事が最も必要であると申し上げ度い。

目方四貫五百匁の大鮭

昨年九月三日、長さ三尺四寸、胴周二尺二寸、目方四貫五百匁と云ふ鮭が捕れた、但し之れはカナダでの話、ブリテツシユ・コロンビア洲スーケと云ふ所で捕れた鮭の一種「ますのすけ」の事である。

海原茫

が出たので愈々最後かと思ふ内バチンと頭に金屬性のエライ強い音が響いて氣が遠くなつた。それから何時間か何日か経つたろう。フト醒めると左の鰓蓋がズキ〜痛む一つ深呼吸をやつて見たが左の方の水の出方が何とも言へぬ變である。鰓蓋がないと思ふと頭の悪い僕でも切られた!と直感した。生れもつかぬ片輪となつた。イヤされたのだと思へば人間は万物の靈長などと威張つて實に勝手な事をするものと思ふた。斯んな苦を與へる位なら神經系統の出來ない卵の時代に鹽漬にするなり煮るなりして暗から暗に葬て呉れたらどれ程功德になつたか知れない。人工孵化なんて美名の下に非道やるものと恨めしい。尤も人間自身も子供を産み過ぎて食はせられないため子供丈け産まない様に

し様即産兒制限をやるとか何とか騒ぐ時代だから吾々下等動物を痛む目に會はずことは何でもあるまい。

片輪に成つては仕方ない。何れにしても先づ生くることに必要だとそこらを見廻せば居るワ居るワ片輪の連中が。然し中には風變りの奴も混して居る。右鰓蓋のない者、半分とれたもの縦の傷丈けでフラ／＼端が残つておる者もある。兎に角一同が片輪であつて見れば何も僕ばかり悲觀する必要がないと幾分気が強くなつた。二三日経つと痛みも無くなつた。お腹も空いて來たので時々水面にバラ撒かる／＼堅い黄色い粉を食つて見たがどうも拙い。と言ふてウマイ物もないので大にバク付いたら忽ち胃腸を壊はしてしまつた。當分絶食療法をやる必要があるので空腹を我慢しておると或朝に体が下の方へ吸ひ取られて小川に出た。更に下つて行く／＼と廣い川に出た。此所は美しい藻もあり石もありウマイ虫も澤山あり水は絶へず流れており實に樂天地と思ふた。間もなく「逃げろ／＼」と仲間が騒ぐので何が起つたかと下の方を見ると恐ろしい大きな口が一呑にしゃうとやつて來た。咄嗟に名案も浮ばず底の大石の横にビタリと体を寄せて念佛を唱へた。頭の上を白いものがス／＼と通て行つて騒も靜まつたので一安心した。聞けばアメマスと言ふ惡黨がやつて來たので五六人一しよに呑まれたそうだ。これでは樂天地でもないマゴ／＼して居られなと思ふた

君が鰓蓋がないのと同様体の色素の或物が無い一種の片輪だよ。然し器關は欠けては居らぬ」と赤い眼をム／＼と強辨した。イヤに高慢な奴だと思ふたが明るる日に川蟬の餌になつたと聞いて可哀想でもあつた。

「オイもう海だよ鹽辛くなるから要心せ海は有名なオコ／＼ツク海だとラウドスピーカが鳴るので心も勇み立つた。大勢の先輩が待ち合して居て愈々これから海洋生活となる。恐ろしい敵もありウツカリすれば網に這入つて出られなくなる。仲間を離れず餘り岸に寄らず仲よく海中旅行をやる様に御馳走は澤山あるなどと色々な話をして呉れた。君等は此河を下つた最後の團體だ。今迄待つて居たとも言ふた。そして旅行が終る時は再び此河へ戻るのでから忘れない様にと特にリーダーが注意した。それから大勢の仲間と共に北を指して進んだ。自分は片輪でもあり体力も弱いのので群衆の中央に在る様に常になつて進んだ。この旅行は案外に樂であつた。二年の歳月は流れた。相當大きくなつたつもりだが皆が片輪のチビと冷かすところを見れば僕は普通よりは小さいかも知れぬ。三年目の夏頃から食欲が無くなつた。そして何となく気がイラ／＼する。仲間の中でも口先の圓い復の曲線のなだらかな奴の側にばかり居たい気がする。こんな奴は比較的ヤサシイ様だ。唯自分は片輪であると言ふ意識が自らを卑下せしむる。然し顔の皮を厚く

のであるべく淺い岸を傳つて下へ移つて行つた。一ヶ月も経たろうか少しは自分ながら強くなつた様な気がするが依然として鰓蓋の欠損が呼吸をするにウマクない。それに片輪の仲間は自分一人になつて了まつた。「お前の親は實に馬鹿だねそんなところを片輪にして産むなんて」と冷かす者があるので「これは人間のおかけだ」と言ふてやつた。「人間と言へば昨日僕は網で掬はれたがどうも怪しいと思ふたので急いで逃げ出したが要心せねばならない」と或仲間がシ／＼／＼言ふて居た。無駄話をして下つて行く／＼と急に變に辛い酸い水に出會はした。一同變な顔を見合したが左の鰓をムキ出しておる僕は到底堪へ切れない程シムので無中になつて深い方へ逃げ出した。十四五間も押し流されて向ふ岸へ渡つたら体が金網へビタリと吸ひ付けられて動きがとれない。何が何んだか解らないが金網の下の方は細い溝になつておる。一時間も経つと運よく金網戸を引き上げて僕を叩きおとして呉れたので戻るか進むか一寸迷つたが此際知らぬ所へは行かない方がよからうと思ふて全馬力をかけて本流へ突進した。後で聞いたが「君はそのまゝ溝を下つて行かうものなら水田へ這入り込んでお陀佛となるのだよ片輪のクセに運強い奴だ」と先輩が言ふて呉れた。本流に出たら十五六人連の仲間と會つた。一人体の白い毛唐見たいな奴が居るので話をしかけたら流暢な我々の言葉で「僕はして一しよに泳ぎ廻て見様。それから實に愉快な旅行であつた。殊に特に仲のよい奴が一人出來たのでこれとは常に離れずに居たが或日一尾の小鯉を見付けたので二人で之を追ひまくつて見た。漸く奴が喰はへたので半分呉れるのかと思ふたら獨でペロリ呑んで「仲間からハグレては大變だ早く戻りませう」とどん／＼行く。これには大に不満であつたが後について一生懸命泳いで行つたが間もなく風が強水くが烈しく動くので遂これに乗つて行くところまで行くと成行に委した。數日経つたら海も靜になつたので仲間が集まつたが例の奴はもう見なかつた。水が甘くなつたと思ふと間もなく受難の河に來て居た。然し三年前の河ではなかつた。水量も多いし時々網が上流からやつて來るそれでも僕は昔と異つて平氣になつて上流へ急いだ。勿論樂しき友も出來たよ。

イヤと言ふ程吻端が突き當つたと思ふたらこれはどうした事だ。ゲーと水から上げられて次にボタンと板に打ちつけられ眞倒に穴の様な所へ這り込んで了まつた。居る／＼美しき異性が。然し何れも僕より大きい奴ばかり。皆はず／＼／＼僕の左の鰓を見ておるには気がヒケた。然し狭いところが幸福だ。そして底の木の格子の間から美しい砂利がチラ／＼／＼するのが見ゆるので皆は如何にモドカシク感じたこと

であろう。楽しさは一夜の夢であつた。これから先は言ふに忍びないところだ。翌朝は惨逆の幕が切つて落された。大勢と共に抱ひ上られ或者は頭を撲られた。美しい異性は遠慮なく腹を裂かれた。阿鼻叫喚の血なまぐさい數時間が経つた。僕は尾柄を握られた。「標識魚だ。根室で放したのか。よく切れては居るがこれで活て居られたのかナ」この傷はそんな古いものでないよ。途中で何かのために喰ひとられたのではないか」「兎に角小さいナ。三年魚としても小さい。体長一尺二寸目方百五十匁」「この鰓では呼吸が完全でないから大きくはなれないよ」「こんな奴の白子は使ふナ」と土間に叩きつけられた。片輪者の悲哀「それもお前達が生手で作たのではないか。大きくなれない様にはお前達が生手だ。オレに何の罪がある。」と大にマクシタてやうと氣がアセツたが喉が乾いて口をハク／＼さするばかりまた握り吊されたと思ふたら狭い箱に入れられた。棺かナと思ふたのも一瞬間であつた。目、鼻、口、皮膚に異様のものがシミて來た。「苦しいッ」と、蕩擻いたなり氣が遠くなつた。(終)

海外事報

る。扱て此の「タンク」を上流に運ぶには先づ魚の入口を遮して水を「タンク」より溢れぬ様にして置き、此れを最初鐵索によつて上方に捲いて、堰堤の上まで揚げ、然る後別に設けてある「レール」に附屬せる滑車に釣りて堰堤を越して之れを上流へ運び魚を放流するのである。此の操作は總て電力によつて自動的に時間を定めて繰返すのであつて、魚を入れることより上流に運んで放流するまで全く人力を必要としないと云ふ事である。

若紅鱒の來游

昨年カナダの太平洋岸なるビーゲット・サウンド及フレザー河に若い紅鱒の大群が來游して科學者の注意を喚起した。

ブリテツシユ・コロンビア州ナナイモ所在の太平洋生物學研究所のダブリュー・シー・クレメンズ博士は調査の結果

河中の「エレベーター」

最近英國に於て「エレベーター」によつて遡河魚族を堰堤下流から上流に運ぶと云ふ頗る新規な考案がウエルソン・エーチ・アーミステットと云ふ人によつて試みられた。此の方法によるときは從來一般に行はれつゝある魚梯によつては到底越す事が出来ぬと云ふ様な高さの堰堤でも容易に魚族を通過させる事が出来ること云ふのであつて、其の考案の要領は一個の「タンク」を作り、之れに下流に於て、上流に遡上せしむべき魚族を誘い入れ、然る後此の「タンク」を電力によつて上に捲き上げ之れを堰堤上流に運んで魚を放流すると云ふ所謂河中の「エレベーター」とも稱すべきものである。

アームステイ氏の顧問技師ヴェ・ジー・ニュー氏が此の模型を作つた、此の模型は「タンク」の深さ二尺、鱒約二百尾を容れる大きさのものであつて、横腹に魚の入口が設けてある。此の入口は釜の口の様な仕掛で一旦入つた魚は再び逃れ出る事が出来ぬ様になつて居る。尙此の「タンク」には鐵管によつて上流から水を導き入れる様に裝置してあつて此の水によつて「タンク」中に魚を誘い入れ様と云うのであ

を次の様に發表した。

スウィフトシユア・バンクで捕獲した六尾は、年齢三年で一ケ年は淡水生活を營んだものである。雄は五尾で雌は一尾であつた。スークで捕獲した四尾も又總て三年魚で雌のみであつた。フレザー河下流で捕獲した四尾は雄三尾雌一尾で、鱗の年輪が明かでないが此れ又三年魚と認められた、尙來游魚の平均重量は二封度九オンス乃至三封度十二オンス(二百匁乃至四百五十匁)であつた。來游の原因は全く不明である。

因に紅鱒の一般に沿岸に來游する年令は四年以上である

甜菜糖工場廢液の河水汚毒

一 昨年の暮から昨年の春に亘つて、英國東アングリアン川に於て甜菜糖工場の下流數哩の間に亘つて無數の魚族が斃死した。魚の種類は「うぐひ」「はや」、鱸等であつた。

此の原因に就て近著の雜誌の報する所によると、道内甜菜糖工場のそれの如く亞硝酸等の化學成分によるものではなく廢液中に含有せられる有機質が河水中にて醗酵する爲によつたものであると云ふ事である。

此の工場の廢液は最初大沈澱池に導き入れて充分沈澱を行つた後河水中に放出するのであるが、放出後に於ても尙

多量の細かき糸屑状の物質が浮んで居る。此の糸屑状のものを顕微鏡下に檢すると大部分は甜菜糖根の細胞膜であつて、纖維素、植物膠質、含窒素物から成つて居る。此の纖維素が細菌の作用によつて醗酵し、此の際河水中より溶解せる酸素を取り、爲めに河水中に酸素缺乏して魚類を窒息死せしむるに至つたものであると云ふ事である。

纖維素が河水中にて醗酵するには初め溶解酸素を取つて葡萄糖に變じ更に各種の有機酸並に「メタン」、二酸化炭素等の瓦斯を生成する、従て河水は酸素を著しく減すると共に有害なる瓦斯をも生じ、斯くして魚族の生活には極めて不適當なる状態に變ずるに至つたものであると、尙廢液の影響する河床は遠く數哩に亘つて纖維素の中間分解物其他によつて被れ眞黒に變じ、魚類の棲息は勿論、植物の發生も全く困難なる状態に立至つたと云ふ事である。

雜 報

朱太鱒化場産鱒(櫻鱒)卵滋賀外一二縣に移す

朱太鱒化場では本年鱒親魚捕獲多かつたので、三百四十六万五千二百粒と云ふ豫期以上に多數採卵をなしたの

で、本年度は擇捉一帯に鱒空前の豊漁であつた爲め、同鱒化場でも成績頗く良く三千五百九十六万五千粒と云ふ多數の採卵をなしたので、本年不漁であつた根室鮭鱒養殖水産組合所屬の鱒化場である羅臼、伊茶仁、標津の各鱒化場に二百萬粒宛計六百萬粒を無償配付した。

尙留別鱒化場では先般富山縣水産講習所に對して十萬粒の樺太鱒卵を贈與したと云ふ事である。

鱒化場鮭鱒親魚捕獲採卵狀況

客年十月及十一月中に於ける道内鱒化場の鮭親魚捕獲數十萬九千四百十尾、採卵數一億五百四十三萬五千八百五十九粒本年度事業開始以來の累計は捕獲數十一萬百六十七尾、採卵數一億五百八十八萬八千三百五十九粒にして、之れを前

で、鮭の孵化を營む爲に設備の餘裕少くなつたので、道廳の許可を得て農林省水産局の斡旋により、之れを滋賀縣に四十五萬粒、岐阜縣に五十萬粒、群馬縣に二十八萬粒を十一月中に分譲した、卵の價格は一万粒に付き八圓なりと。

尙同鱒化場より鱒養殖を營む登別温泉赤阪準吉及上川郡上川村富塚慶吉の兩氏に對しても鱒卵三萬粒宛を分譲した

鱒及樺太鱒卵無償配付

道廳では本年度西別鱒化場で採卵した鱒卵の内四十萬粒を三石漁業組合に、十萬粒宛を函館市並に月寒歩兵第二十五聯隊に對しそれぞれ無償配付をした。三石漁業組合では之れを三石鱒化場に收容し、孵化したものは三石川に放流し一部は過般築造した鱒養魚池に放養して池中養成を試みると云ふ事である。又函館市に配付したものは同市水道水源池に放養して此の水面の利用に資す計劃である。又歩兵二十五聯隊では島松練兵場内に養魚池を設けて此れを養成し軍隊内に水産思想を鼓吹すると同時に新鮮なる榮養食品の自給を計らうと云ふ事にある。軍隊内の養魚計劃は將に之れ本邦最初の試であらう。

次に配付した樺太鱒は留別鱒化場で採卵したものであつ

鮭親魚捕獲採卵表

鱒化場	親魚捕獲數			採卵數			前年同期		比較増減△減	
	九月迄	十月	十一月	九月迄	十月	十一月	採卵數	捕獲數	採卵數	捕獲數
朱太	二六	〇七、七〇	三、三三	〇〇、七、七〇	〇〇、〇〇、〇〇	〇〇、〇〇、〇〇	〇〇、〇〇、〇〇	〇〇、〇〇、〇〇	〇〇、〇〇、〇〇	〇〇、〇〇、〇〇
尾別	—	〇、〇〇	三、三三	—	〇〇、〇〇、〇〇	〇〇、〇〇、〇〇	—	〇〇、〇〇、〇〇	—	〇〇、〇〇、〇〇
堀株	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	〇七、七〇	三、三三	〇〇、七、七〇	〇〇、〇〇、〇〇	〇〇、〇〇、〇〇	—	〇〇、〇〇、〇〇	—	〇〇、〇〇、〇〇

別	伊茶仁	羅白	上管	風連	有飛	別門	老那	紗那	比良	斜里	網走	常呂	湧別	頓別	德志	幌別	天鹽	千歲	西別	留別	計
捕獲	2,573	1,975	2,333	4,778	1,249	1,665	1,064	1,375	1,375	7,035	3,247	1,267	4,998	1,433	8,799	1,298	1,781	4,963	3,030	92,810	53,823
探卵	1,577	1,975	2,333	4,778	1,249	1,665	1,064	1,375	1,375	7,035	3,247	1,267	4,998	1,433	8,799	1,298	1,781	4,963	3,030	92,810	53,823
計	4,150	3,950	4,666	9,556	2,498	3,330	2,129	2,750	2,750	14,070	6,494	2,534	9,996	2,866	17,598	2,596	3,562	9,926	6,060	185,620	107,646

鮭及紅鮭親魚捕獲採卵表

及魚種	十月	十一月	計	十月	十一月	計	捕獲數	探卵數	比較
洞爺鮭	5,668	2,999	8,667	4,000	3,900	7,900	3,263	2,255	△
阿寒鮭	1,771	4,101	5,872	1,000	1,700	2,700	1,100	1,555	△
紅鮭	11,016	7,333	18,349	7,000	12,400	19,400	7,363	11,110	△

昭和四年度第一期(十月中旬)鮭漁獲高及第二期(十月中旬)鮭漁獲高

本年度第一期鮭漁獲高は一二、四二九石にして前年同期に比すれば八、二一六石の増収となり、尙大正十三年より昭和三年に至る五ヶ年間の同期平均漁獲高に對比するに一一、七五〇石の増収なり。次に第二期漁獲高は二万一千五百六十六石にして、前年同時に比し九千四十九石の増収なるも大正十三年より昭和三年に至る五ヶ年間の同期平均漁獲高に比するに二千二百三十石の減収なり。

支廳	第一期	第二期	前年	第二期	對比
石狩	6,566	5,021	6,088	2,252	5,036
後志	6,566	1,566	2,666	5,333	1,033

捕獲	探卵	比較	
樺山	1,298	1,781	△
渡島	2,333	2,333	△
膽振	1,249	1,249	△
浦河	4,778	4,778	△
河内	1,665	1,665	△
根室	1,064	1,064	△
網走	3,247	3,247	△
宗谷	1,267	1,267	△
留萌	7,035	7,035	△
函館	1,375	1,375	△
室蘭	1,375	1,375	△
釧路	3,030	3,030	△
計	185,620	107,646	△

尙最近五ヶ年間の漁獲高左の如し

年次	第一期	第二期
大正十三年	八、四四六	一六、〇三三
同十四年	一〇、二二六	一六、三三三
昭和元年	一五、〇四四	一七、〇八九
同二年	一〇、六九五	一七、表七
同三年	四、二二三	三、一四三
平均	九、六七九	三、七六六

米國産「クラッピー」蕁菜沼に移殖

既報、水産試験場では北米合州コロロンピア河産「クラッピー」一年魚八百八十二尾、二年魚二十尾を農林省水産局から分譲を受けて去る十月十三日龜田郡大沼村蕁菜沼に移殖した。

四年度鮎及鮠孵化竝に移殖

本年度道内に於て鮎孵化事業を営みたるものは、壽都、歌葉兩漁業組合、余市漁業組合及尻別川鮎鱒人工孵化組合③三であつて湯ノ川漁業組合は鮎親魚不漁の爲め休止するの止むなきに至つた。尙本年度は鮎卵の移殖をなせるものは一ヶ所も無かつた。

次に鮠の孵化事業を営みたるは、根室水産會、別海平糸

りとして數日或は十數日分を一纏めにして投函したり隔日に捕獲しかの如く作成して報告するものもある様子なので監督官廳では鋭意調査中である。情狀酌量の餘地なきものは容赦なく孵化事業取締規則に依て處分する方針らしく此際お互に注意を拂ひ違反なき様注意肝要なり。

會 報

豊平川親魚捕獲試験經過

前號所報の如く本協會に於ては豊平川鮎親魚捕獲試験に關し千歲孵化場の委託を受け九月廿五日より之れに従事するの處、成績比較的良好にして相當多數に捕獲及探卵をなしたり。十一月末迄の狀況左表の如し、尙十二月に入りても之れを續續せるも編輯の都合上其の成績は次號に譲ることとせり。

月次	一捕獲	數一使	用一數	探卵數
九	〇	三	八	一
十	〇	二六	四七	一六
十一月	〇	二七	四二	一〇〇
計	〇	二九	九二	一〇七

野付村漁業組合、網走漁業組合及大沼漁業組合の四組合であつて、鮠卵の移殖は網走湖より洞爺湖、阿寒湖、大沼に各四百八十万粒、北見國兜沼に三百二十万粒であつた。因に大沼は昭和二年三年の兩年に亘りて網走湖より鮠卵一千三十五万粒を移殖したのであつたが非常に良好に蕃殖して本年地元にて二百七十万粒の探卵をなす事が出來た。

四年度鮎鱒孵化事業實習生

道廳水産課に於ては昭和二年度より年々道内孵化事業に従事すべき技術員の養成をなすつゝありたるが、本年も又左記五名を去る十二月十日より千歲孵化場に入場せしめ養成しつゝあり。

瀬棚郡瀬棚町大字瀬棚村	杉村 弘
紋別郡上湧別村字ノツボコマナイ	片桐 正吉
河西郡帶廣町字オベリベリ	鴨川 巖
靜内郡靜内村大字市父村	前田 篤
雨龍郡納内村	佐藤 三郎

孵化事業報告に關する注意

親魚捕獲探卵の着手終了、捕獲日報其の他各種報告は規程に依て提出期を明かに定められてあるにも拘らず、兎角遅延勝中では全く報告しないものもある又日報を煩雜な

本協會入會者氏名

十一月及十二月中に於て本會に入會せる者の氏名次の如し。

- 一種會員
 - 古宇郡泊村大字屈株村 屈株鮎魚蕃殖組合
- 二種會員
 - 古宇郡泊村大字屈株村 屈株鮎魚蕃殖組合長 吉良敬作
 - 同 郡同村大字同 孵化場技術員 瀧澤英策

會員消息

瀨谷求馬氏 根室支廳より石狩支廳に轉動。
阿部莊吉氏 湧別孵化場技術員となりたり。

寄贈圖書

水産新報、水政新聞、釣 人

會 告

一、昭和四年度會費納入方御願

昭和四年度會費をなるべく速に御納入下さる様會員各位に御願致します。

二、寄稿歓迎

本會は會員たる与否とを問はず鮭鱒孵化事業に關する論説、資料、文藝は勿論、會員諸君の情報其の他参考となるべき事項大小に關せず御投稿を歓迎致します。奮つて御寄稿を御願ひ致します。(原稿料として薄謝を呈します)

三、質疑應答

本會は鮭鱒孵化事業に關する諸種の質問に御答へ致します。御遠慮なく御申出下さい。

四、受托事務

本會は鮭鱒孵化事業に關する各種の設計、鑑定其の他願書類の作成の委託に應じます。料金は左の通りです。

- 一、鮭鱒族鮭化場又は養魚池の設計
 - 鮭鱒人工孵化場一件につき三十圓以上
 - 其の他 一件につき 十圓以上
- 二、養殖用器具の設計又は鑑定
 - 一件につき 五圓以上

三、養殖用水族の鑑定

一件につき 一圓以上

四、養殖に關する願書類の作成

右の他實地調査を要する場合は之れに要する實費を申受けます。一件につき 一圓以上

五、廣告引受

本會は會員其の他の方々の御便宜を計る目的を以て左の料金に依つて廣告を御引受致します。御希望の方は本會宛御申込下さい。

- 廣告料
 - 一頁一回十圓 半頁一回五圓
 - 四分ノ一頁一回二圓五十錢 八分ノ一頁一回一圓二十錢
- 尙寫眞版入りの場合は右料金の倍額を申受けます。

六、會員募集

孵化事業に關係を有するもので未だ入會して居らない向に對しては會員諸君に於て極力御勧誘の上入會方御盡力を願ひます。

七、孵化場寫眞募集

本誌口繪として孵化場又は孵化事業に關係を有する寫眞を毎號掲載致し度いと思ひます。御持合の寫眞なるべく原板御寄贈を願ひます。

年 新 賀 謹

鮭鱒孵化用器具ノ御用命ハ是非!!弊店へ

- 一、鮭、鱒、鮎、鯉、孵化盆及同枠
- 一、同孵化槽、受卵器
- 一、アスファルト(流動)塗料
- 一、テレビン油、各種染料
- 一、龜 甲 紗(卵掬用)海綿
- 一、醫療藥品、工業藥品、高名賣藥
- 一、山本藥院製劑衛生材料
- 孵化用器具製作發賣元

父子堂 山本勝見藥舖工作部

札幌市北三條東六丁目(電停前)
電話 二五二七番
番 振 替 小 摺 三 九 七 八

定 一冊 參拾錢 郵稅貳錢
價 六冊(一ヶ年分)壹圓八拾錢 郵稅不用

昭和四年十二月廿五日印刷
昭和五年一月一日發行

札幌市南八條西十丁目一〇三五番地
編輯兼發行人 齋 藤 光 雄
札幌市北一條西六丁目一番地
印刷人 大 谷 木 茂
札幌市北一條西六丁目一番地
印刷所 文昭堂印刷所
電話 三、二八五番

發行所 北海道鮭鱒孵化事業協會
(北海道廳水産課内)
札幌市北三條西六丁目
電話 二六三〇(内線五七番)
振替口座水摺 二一四八番

謹 賀 新 年

鮭 鱒 孵 化 器 一 式
製 造 販 賣

大
林
長
兵
衛

札幌市北四條西七丁目一番地
電話 一四五一番